

第1分科会（職務確立）

自己表現の世界から学ぶ人生観  
～ 学校事務職員として生き抜くための一人研究～

研究委員会担当

会 場：(相馬共同福祉施設)

発 表 者 宮城県鳴子町立川渡小学校  
主幹兼事務長 大内正 様

司 会 者 喜多方市立喜多方第一中学校  
主 査 安部文恵

記 録 者 浪江町立浪江小学校  
主 査 橋本朱美  
飯舘村立草野小学校  
主 査 木村典子

## 趣 旨 説 明

### 21世紀の学校事務職員像を求めて

#### 教育改革と意識改革

本年度より「完全学校週5日制」や「総合的な学習の時間」に代表される新学習指導要領がスタートしました。ゆとりある教育と、子供達の生きる力の育成を目指したこの教育改革により、学校は様々な視点から評価され、多くのメディアにも取り上げられています。本県でも第5次長期総合教育計画「新世紀ふくしまの学び・2010」を策定し、社会の変化に対応できる地域に開かれた学校と、教職員が新たな教育改革により、学習空間を支える人材としての資質向上が期待されております。私達学校事務職員も、新しい創造性が求められる時代となりました。

県事務研研究委員会では第四次長期研修計画を立案し、研修による自己の意識改革を目指しています。特に今日の教育改革の中で、学校事務職員の意識改革は急務と考えられるからです。本来、学校の教育行政の面から保護者や地域住民との関わりを果たさなければならない私達学校事務職員は、常にコーディネーターとしての役割を担うことが望まれます。しかし、実務的な事務処理に追われ、与えられた研修にただ参加しているだけでは、自己の意識改革は進むものではありません。21世紀の学校事務職員像の展望を踏まえ、教育改革に沿った自己研鑽の手立てはどうあるべきかを考えて行きたいと思います。

#### 意識改革を進める

第7次定数改善計画の中で「きめ細やかな学習指導や教育の情報化の支援等のため事務部門の強化対応」が示されています。しかしながら本県においては、学校事務職員の研修制度は私達が望んでいる様な充分なものではありません。特に学校事務職員の経験や職能に応じた専門研修は大変乏しいものです。近年、県務事研の研究大会において、他職種との共同実践が研究発表に頻繁に取り上げられるようになりなした。少しずつではありますが、学校事務を校内でシステム化するなど、学校事務職員からのアプローチが目立つようになったと感じております。これは子どもの教育に関し、学校と家庭・学校と地域が持つ様々な教育場面をチームの一員として、学校事務職員の立場から積極的に担おうとする表れではないでしょうか。さらに、教育を支援する役割を担う立場の学校事務職員として、教育行政に関する深い知識や有用な技術の習得は、職務の確立の観点からも必要になります。「新世紀ふくしまの学び・2010」の中にある「共生」と「自立」も、私達が進めようとしている共同実践と親密に関係しています。また、全国に目を向けると、県事務研の進めている共同実践の他にも、学校事務職員の職務標準を定めたり職指定をするなど、私達の一步も二歩も進んでいる都道府県が多数存在します。今回の教育改革は、学校事務職員の意識改革を進めることにより、職務を確立できるチャンスと考えております。

昨年度の棚倉大会では「自己の意識改革」を目指して、分科会や全体会、記念講演を設定しました。

第1分科会では研修・研究ガイドラインを策定し、会員の資質向上を図っている田村地区事務研の取り組みを紹介しました。研究協議では、綿密に計画された主題別事務改善の研究が素晴らしい等の意見が交わされましたが、一方では研修会日数の確保が難しいなど、地区事務研を含め私達が望む今後の研修充実に課題を提示した研究発表でもありました。また同時に、研修充実が進まない一つの理由として、個人の意識が従来のものであることも浮き彫りになりました。

今後は、県事務研の進める第四次長期研修計画の推進と実現に向けての活動はもちろん、それを支えるための地区事務研での更なる研修充実と、校内での自己研修も重要になります。

また数少ない研修を効果的なものにするためには、研修を受ける側の姿勢も大切になってきます。ただ漫然と与えられた研修に参加するだけでは資質の向上は望めないからです。時には学校事務のプロとして、自ら進んで必要と思われる研修を受けることも専門性を高めるため必要だと考えます。

棚倉大会でのアンケート結果において、「研究大会に参加して意識が変わった」と回答した会員は6%でした。自己の意識改革をするのは容易ではありません。学校に単数配置であることから、自からの気付きや自己研鑽意識がなければ「教育目標具現化への貢献」から、時代が望む「教育を支援する学校経営事務」への転換が益々遅れをとることになるでしょう。

私達が望む職務の確立をするためには、意識改革を中心に据え、かつ第四次長期研修計画によって会員の資質向上を更に図ることが重要と言えます。

### **教育を支援する学校経営事務をめざす**

学校は児童生徒への教育を目的とする教育課程（教育計画）を編成し、それを実施運営する組織です。校長のリーダーシップのもと、様々な職種の協働により学校経営が進められています。その中で職種間を結びつけ、情報を整理提供することにより学校の意思決定を効率よく進め、目的である教育計画を達成するために、学校事務は重要な役割を果たす部門です。教育活動を充実し、特色ある学校づくりを進めるためには、学校を組織体として機能させ、経営管理能力の強化を確保する必要があります。そのために学校事務は中心的な役割を果たさなければなりません。学校事務職員は、校内で教育行政や財務を担うことによりその職責を果たし、教員とは異なる立場から教育活動を支援しております。そして、広い視野で学校経営に参画することにより校長の意思決定を助け、児童生徒の学びの環境を保障していく必要があります。

県事務研では、学校事務を確立するための指標として「学校事務標準（案）」を研究の成果としてまとめました。学校事務を主体的に担うのは学校事務職員です。しかし、単数で全てをこなすことは到底不可能です。そこで、学校経営の視点に立ち、スタッフリーダーとしての役割を積極的に果たすような資質を備え、教育計画の達成に寄与するための学校事務（＝学校経営事務）を担う職員でなければなりません。個人プレー（職人的・属人的）から、チームプレー（組織活動）への意識改革が必要です。

大内先生は、平成6年10月に檜葉町で開催された東北事務研大会において、学校事務職員はその時代の「社会感覚」を吸収し、仕事に生かして成長しなければならない。しかし、社会一般が考えているイメージとはかけ離れている。その解決の糸口を探すため、自分を深く内省し、個性の尊重を悟り「自己啓発とは自分を発見することである」との発表をされております。先生の考える人生観、学校事務観や理想的な学校事務職員像について講話をいただき、私達の意識改革を進めるための指標としたいと考えます。

# 自己表現の世界から学ぶ人生観

～学校事務職員として生き抜くための一人研究～

宮城県玉造郡鳴子町立川渡小学校

主幹兼事務長 大内 正

## 1 はじめに（出会いは夢の始まりとなる）

私は主幹兼事務長である。過日、宮城県の「主幹級研修会」で、講師から「主幹とは、次世代を育てる仕事もあるのだよ」と諭された。そこで一念発起し、今回の福島県事務研究会に於いて、私事ではあるが、今までに研究してきた内容を抜粋して皆さんの前に呈示することとした。

私は、過去に二つの大病？を経験した。一つ目は、「拒食症？」である。二つ目は、平成10年に体験した「うつ病？」である。今は完治したが、お陰様にて勤務を4ヶ月も休ませてもらった。どちらも「自律神経失調症」的な病のようで、ストレスかショック症状で発病したような気がする。今想えば、この神経的な病？から脱却するために、必然と“自分”を研究しなければならない私の運命だったかも知れない…。また精神的なものは、当たり前の事ではあるが「心の持ち方」でどうにもなるもんだなぁと痛感した次第である。

我々学校事務職員は、日頃、“縁の下の力持ち”と励まされ、表舞台に出るようなことは数少ない。分かっていることではあるが、心の世界には寂しいものがある。感覚的なものとしては、スタッフ、大仏、秘書、ほら穴の蝙蝠、ネット裏、井戸の中のツルベ、忍びの者、アウト・ドア職員等と意識化され？“太平洋一人ぼっち”の環境の中で、コツコツと事務処理に追われ、安定・安全・安心の3精神で毎日勤務をしている。学校事務職員としての生き方を考えれば、一番危険な生き方は、ただ流される人生を送ることである。何かしらの自分の“アイデンティティ”を探索し、内面世界（精神、心、気持ち）を高揚すべきものと考えられる。当初の私の目的は、自分の内面世界を広げるための資料ではあったが、今回のこの「研究シート」を理解し、ぜひこの機会に、もう一度「自分」を見つめ直し、今後の生涯学習（生き方）に役立てて欲しい。

さて、私には疑問がある。それは「人間の死」である。生きている限り、我々は、いつかは必ず逝く。それぞれの学校事務職員の人生を考えて見れば、我々は、学校に“1人”であるから隣の仲間が見えない。私が採用されて以来、宮城県の古川管内事務研究会の会員だけでも、数名の男性事務職員が自殺等で亡くなっている。いったい、この原因は何だったのだろうか。厭世感、孤独感、疎外感、それとも焦燥感…、このような事態になる前に何らかの救済措置はなかったのだろうか…。全く残念でならない。混迷化している教育職場での人間関係の希薄化？コミュニケーションのあり方、そして自分の仕事のやり方や考え方にも問題があったのではなかっただろうか。

私のさもない生き方研究の資料ではあるが、この中の“何か”が、悩める仲間の手助けともなれば絶大なる喜びとなる。学校事務職員の縁を活用し、共にこの人生を語り合おうではないか。

## 2 「研究シート」の呈示（生き方一人研究会）

- ・「研究シート」その1～その11 <別紙；参照>

## 無意識の世界

「ほんとうの自分」とは、いったいどういうものなのだろうか。心の深い部分を知ることにより、他の誰でもない自分の存在を内側から支えている「ほんとうの自分」を、まず最初に見つけ出すことである。

フロイト氏が発見した「無意識の世界」(オーストリア生まれの精神医学者)

我々の知らないところで働いている心の世界のことを「無意識」と言う。

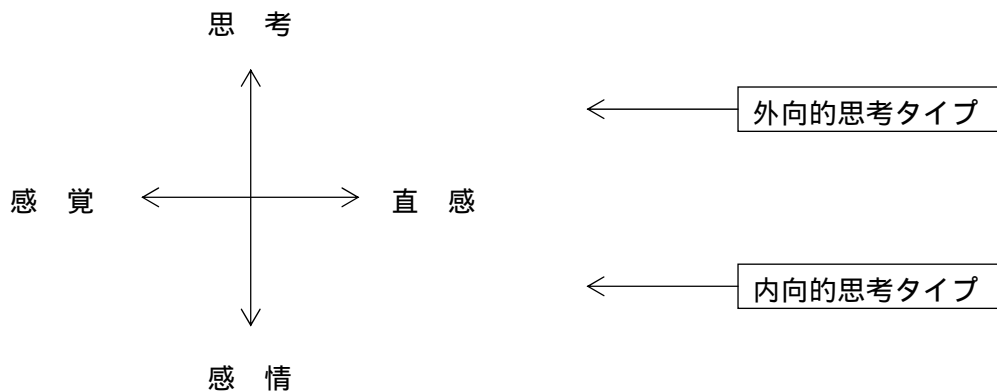
- ・無意識は、私たちのふだん気づかない心の深いところにあるということ。
- ・無意識は、私たちの都合に関係なく、独自の法則で働いていること。
- ・無意識は、思いがけないようなところに、思いがけないような影響を与えていること。

ユングのタイプ論

- ・心の深いところにあったものが、行動を通して現実世界に現れてくるとき、そのエネルギーの向かい方にはそれぞれ特徴がある。心のエネルギーの向かい方によって、人は外向的タイプと内向的タイプに分けられると考えた。

- ・「心の4機能」(思考・感情・直感・感覚)

ユングは、思考・感情・直感・感覚の4機能と外向・内向の2つのタイプとの組合せから、外向的思考タイプ、内向的思考タイプ……といった8つのタイプが存在すると考えた。



「投影」

自分の心の中に持っているもので、自分がそれを持っていることを意識することが自分を傷つけるような場合、無意識的にそれを他の人や物に対して映し出して、自分を傷つくことから守ろうとする、自分を守るための心の働きのひとつである。

「心の仮面」=ペルソナ

ユングの用語で、人が社会に対して適応していくときに他人に対して示す顔や態度のことであり、また心には、社会と内面の橋渡しの役目を果たす「心の仮面」というものが存在しているということ。

## 「アイデンティティ」の探索

- 成熟した性格（米国の心理学者；オルポート）      性格 = 遺伝 × 環境
- ・自分を広げることができる
  - ・温かな人間関係が築けている
  - ・物事の見方や処理技能などが現実的である
  - ・自分を客観的にとらえることができる
- ・一貫した目標が持っている
  - ・能動的に境遇を拓く
  - ・情緒的に安定している

社会心理学.....自分と他人との間で生ずる行動に、どのような仕組みが働いているのかを  
解き明かすための心理学の一領域が社会心理学である。  
それは、人間関係の科学であると言いかえることができる。

- ・社会心理学が対人関係について扱っている領域の例
- |      |        |           |
|------|--------|-----------|
| 対人認知 | 向社会的行動 | コミュニケーション |
| 対人魅力 | 帰属過程   | 説得        |
- 
- ・話を聞いてくれる
  - ・良い評価をしてくれる
  - ・長所を認めてくれる人
  - ・苦楽を共にする
  - ・人より優れているところがある
  - ・似た者同士である
  - ・凸凹を補い合える

交流分析.....人は誰でも3種類の自分（親・大人・子ども）を持っているという。

エゴグラム（裏面）.....事務職員には高度なNP（養育性）が必要となる。

摂理...万物を支配している道理にかなった法則。

エリクソン（ドイツ生まれ）の「アイデンティティ」 < 研究シートその10 >

- ・居場所探しのポイントの一つは、「自分は何がしたいのか」「自分はどんな人間になりたいのか」ということである。
- ・アイデンティティは、人間の今ここにある、はかない存在を錨のように定着させるものとして必要なものである。実際、人間存在という社会的ジャングルにおいては、アイデンティティの感覚を持っていなければ、自分は生きているのだと感ずることすらできない。自分が、自分であるという安定感が得られないのである。

（社会の中での自分の居場所）

- ・アイデンティティの達成
  - ・子供時代という自分の過去のとらえ直し
  - ・自分と社会の相互作用
  - ・社会の中に自分にふさわしい場所を探し出すこと

エゴグラムチェックリスト（成人用）

以下の質問には、はい( )、どちらともつかない( )、いいえ(x)のようにお答えください。ただし、できるだけ x で答えるようにしてください。

C P ( 点	1	子供や妻(または夫)が間違っただけをしたとき、すぐにとがめめますか。					x
	2	あなたは規則を守ることにきびしいほうですか。					
	3	最近の世の中は、子供を甘やかしすぎていると思いますか。					
	4	あなたは礼儀、作法にうるさいほうですか。					
	5	何ごとにもやり出したら最後までやらないと気がすみませんか。					
	6	自分を責任感のつよい人間だと思いますか。					
	7	小さな不正でも、うやむやにするのが嫌いですか。					
	8	「ダメじゃないか」「・・・しなくてはいけない」という言い方をよくするほうですか。					
	9	時間やお金にルーズなことがきらいですか。					
	10	よい、わるいをはっきりさせないと気がすまないほうですか。					

N P ( 点	1	人から道を聞かれたとき、親切に教えてあげますか。					
	2	頼まれたら天抵のことは引き受けめますか。					
	3	友人や家族に何か買ってあげることが好きですか。					
	4	子供をよくほめたり、頭をなでたりするほうですか。					
	5	他人の世話をするのが好きなほうですか。					
	6	他人の欠点よりも、長所を見るほうですか。					
	7	人が元気をなくしていると、慰めたくなるほうですか。					
	8	子供や妻(または夫)の失敗に寛大ですか。					
	9	あなたは思いやりがあるほうだと思いますか。					
	10	経済的に余裕があれば交通遺児を引き取って育てたいと思いますか。					

A ( 点	1	あなたは感情的というよりは理性的ですか。					
	2	子供を叱るときに、よく事情を調べますか。					
	3	何か分からないことがあると、人に相談してうまく処理しますか。					
	4	仕事は能率的にテキパキと片付けていくほうですか。					
	5	あなたはいろいろな本をよく読むほうですか。					
	6	子供をしつけるとき、感情的になることは少ないほうですか。					
	7	物事は、その結果まで予測して、行動に移しますか。					
	8	何かするとき、自分にとって損か得かをよく考えますか。					
	9	体の調子のよくないときは、自重して無理を避けめますか。					
	10	育児について、妻(または夫)と冷静に話し合おうとしますか。					

F C ( 点	1	うれしいときや悲しいときに、すぐ顔や動作に表しますか。					
	2	あなたはよく冗談を言うほうですか。					
	3	言いたいことを遠慮なく言うことができますか。					
	4	子供がふざけたり、はしゃいだりするのを放っておけますか。					
	5	欲しい物は、手に入れないと気がすまないほうですか。					
	6	映画や演劇など娯楽を楽しめますか。					
	7	われを忘れて子供と遊ぶことができますか。					
	8	マンガの本や週刊誌を読んで楽しめますか。					
	9	「わあ」「すごい」「かっこいい!」などの感嘆詞をよく使いますか。					
	10	子供に冗談を言ったり、からかったりするのが好きですか。					

A C ( 点	1	あなたは遠慮がちで、消極的なほうですか。					
	2	思ったことを言えず、あとから後悔することがよくありますか。					
	3	無理をしてでも他人からよく思われようと努めるほうですか。					
	4	あなたは劣等感がつよいほうですか。					
	5	子供のために、どんなイヤなことでも我慢しようと思っていますか。					
	6	他人の顔色を見て、行動をするようなところがありますか。					
	7	本当の自分の考えより、親や人の言うことに影響されやすいほうですか。					
	8	上の人や、子供のごきげんをとるような面がありますか。					
	9	イヤなことをイヤと言わずに、抑えてしまうことが多いほうですか。					
	10	憂うつな気分や悲しい気持ちになることがよくありますか。					

この表に得点を書きこんでください

20						
18						
16						
14						
12						
10						
8						
6						
4						
2						
0						
	C P	N P	A	F C	A C	

採点方法

... 2点

... 1点

x... 0点

## 自己実現 (自分の人生を生きる)

### 発想がぐんと広がる「創造的発想法」

創造的発想を導く一つの方法として「ブレン・ストーミング」がある。これは創造的集団思考法ともいわれるもので、アメリカのオズボーン氏によって創始されたものである。12人程度の人が集まって、絞られたテーマに対する各人のアイデアを、互いに批判することなく自由に出し合う発想法の一つ。

### 創造的な発想をするには

- ・好奇心が強いこと
- ・自分の目で確かめる精神を持つこと
- ・生きた知識を持っていること
- ・いろいろな角度から眺めてみる
- ・チャレンジ精神があること
- ・タイミングよく提案する勇気を持つこと
- ・自分の創造性を外に表現すること
- ・想像力=創造力を磨き上げていくこと
- ・メモをとる習慣をつけること

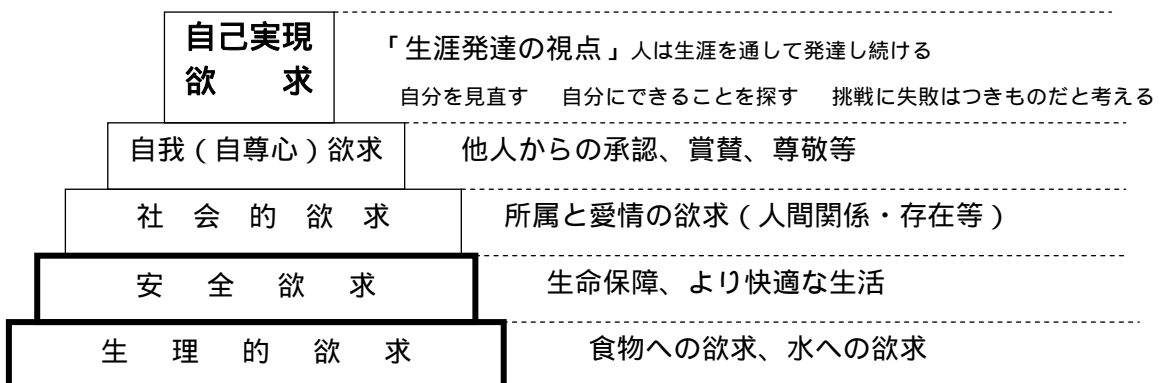
### 「インスピレーション」

一瞬のひらめき、あるいはそのことによって問題が解決されることをいう。インスピレーションが自分の考えではなく、神から与えられたものとして、神の啓示とが靈感などと表現されることもある。

### マズローの「欲求の五段階説」.....自己実現(自分の人生を生きる)

アメリカで生まれ、アメリカで活躍した心理学者。人間性心理学の発展に力を注ぎ、動機、自己実現過程、創造性、精神衛生などを研究した。

マズローは、人間は誰しも潜在的に自分自身を向上させ、豊かで創造的な生活を求めている気持ちを持っていると言っている。



マズローの「欲求の五段階説」



## 問 題 解 決

ステップアップの心理学 = 「青年期」

- ・ 思春期から青年期にかけては、意識的に自分を形成し始める時期である。このときに出会った人間や出来事によって、しばしば人は人生観や価値観に大きな影響を受けることがある。どんなふう生きて、どのような人間になりたいかという、自分の人生のおおまかな方向性の基礎がつけられるのも、この時期である。青年期は、人生の第二の誕生の時期であるとも言われている。
- ・ ふつう青年期は、児童から成人への過渡期として位置づけられる。この時期の経過のしかたが、その後の成人期に大きな影響を与える。青年期を、「あるときは大人集団に属し、あるときは子ども集団に属するが、いずれの場合も中心的存在になりえない周辺人」と例えたのは、ドイツで生まれ、アメリカで活躍した心理学者レヴィンである。

問題解決のステップ（問題解決の技法）

1. 目的（ゴール）を具体的に決める。
2. 目的を到達する上で必要なものを考える。
3. 障害になるものを見つける。
4. 障害物対策を立てる。
5. 目的に到達するまでの期間を設定する。
6. イメージトレーニングで、問題解決までの流れを心に焼きつける。
7. 実行に移す。

「KJ法」……社会人類学者の川喜田二郎氏が考案した創造性開発の一つの技法である。  
「KJ」は、彼の姓名の頭文字からとったものである。

「問題解決発想法」= ひらめき（啓示）を大切にす。

1. 自由に出されたアイデアを一つずつ紙片に書く。
2. そのバラバラな紙片をグルーピングしていく。
3. 小さなグループから次第に大きいグループをつくる。
4. 各段階のグループ相互間の関係を考え、空間配置をする。

ポジティブ・シンキング（肯定的思考）… 物事を前向きにとらえるプラス思考。  
困難を困難と考えず積極的に行動する。

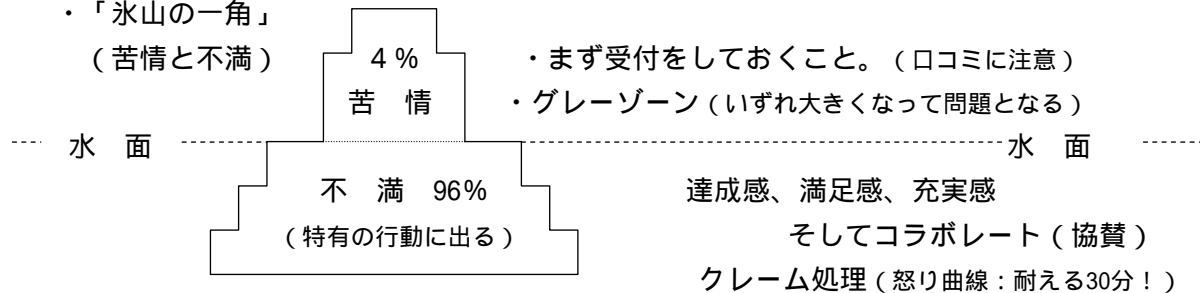
ネガティブ・シンキング（否定的思考）… 絶望感や無力感に襲われ、些細な問題も大きく受け止め、行動が消極的になる。ときには嵐が通りすぎるのを待つ。

## マクレガーの Y理論 (1930年・米国)

	理 論	Y 理 論
人 間 観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は生まれながらにして仕事が嫌い</li> <li>・アメとムチ</li> <li>・ルールを守って優秀な人</li> <li>・性悪説 (中国の荀子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は働くことが本性</li> <li>・自分で立てた目標のために自分にムチ打って働く</li> <li>・成果を上げる人</li> <li>・性善説 (中国の孟子)</li> </ul>
組織原則	階層原則 (上意下達)	統 合 原 則 ( 創 造 性 )

### 1 「苦情処理」

- ・「顧客満足」の3要素……「共感」「納得」「期待以上」そして「尊重」
- ・「誠意」には、スピードが必要。(感動はリピート現象を生む)
- ・電話は対話、出会いは会話になる。(見通しを与え、リスク対応を行う)
- ・「モーメント・オブ・トゥルース」(真実の一瞬)トラブルは、弱ったつなぎ目で発生する
- ・「氷山の一角」



### 2 「プロブレムソルバー」としての管理職の条件

(思考技術を身に付け、システム思考で問題解決するもの)

#### < 求められる能力 >

- ヒューマン・スキル (人間関係を処理する能力)
- テクニカル・スキル (専門分野の能力)
- コンセプチュアル・スキル (思考技術)
- ビジョナル・スキル (理念や哲学、伝統を理解した上で、その時代や状況に合わせて解釈・発展させ部下や組織に伝承する能力)

#### < 求められる役割 >

- コントロール…状況を特定の水準に保つ行為。  
(管理・支配・取締り、監督・制御・規制・統制など)
- コンダクト……共通の目的に向けて一定の法則のもとで専門家たちを統率・指導して動かすこと。
- ディレクト……組織の方向付け、戦略的な意思決定を下す。

「生き方一人研究会」 “誕生秘話”

神 聖 な 宇 宙 意 識

天 神 仏 霊 界 5 心 ( 祈 念 願 望 拝 ) ピグマリオン効果

運命 死生観 哲学 → 三度の思想革命 ( S・フロイト )  
⇨ 研究シートその7 参照

生きる哲学「生き方研究」

【顕在意識】

人 間 社 会

コミュニケーション  
(人間関係能力)  
感情交流の社会

役割関係の社会

- ・ 出逢い「一期一会」
- ・ 表現力の体得
- ・ 話力研究  
挨拶 対話 説明等

歴史上、神は「共存共栄」の社会を創ろうとしたが、人間が自己のエゴやその我欲によって、対立組織の「争乱社会」を創ってしまった。いわゆる戦いの連続の歴史である。

【潜在意識】

創の世界「事務だより」

- ・ 癒しから支援へ
- ・ 組織論
- ・ 幸福論
- ・ 人生論
- ・ 運命論
- ・ 恋愛論他

平和社会の樹立

- ・ 社会還元
- ・ 社会奉仕
- ・ 社会福祉  
等

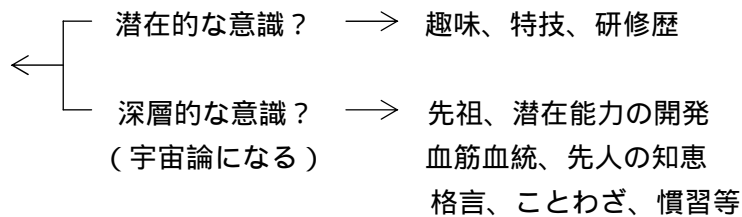
人間の悪と欲望  
・ 怒りの文化  
・ 憎しみの文化  
・ 報復の文化



【深層意識】とは「魂」の現れである。 書く事とは“意識”を描くこと。

(体験、考えたこと、思ったこと、感じたこと、伝えたいこと等)

「生き方一人研究会」の誕生



現代の教育観 ( 相対比較 ) の研修感覚から発想の転換を試み、自己改善や自己実現の必要性を悟り、「内面研究」へと切り替えた。

願えばかなうことを「ピグマリオン効果」と言う。(念ずれば華開く)

(参考) 人類の歴史の中で、人間は三つの大きな思想的な革命があった。第一の革命は、神の支配からの反逆である。十六世紀の天文学のコペルニクス(地動説)から始まって十九世紀前半の生物学のダーウィン(進化論)に至るまで、三百年の間に進められ、物理学・化学・細菌学・動物学等の進歩を含めての自然科学の出現によって“神の存在”は、影が薄くなり始めた。

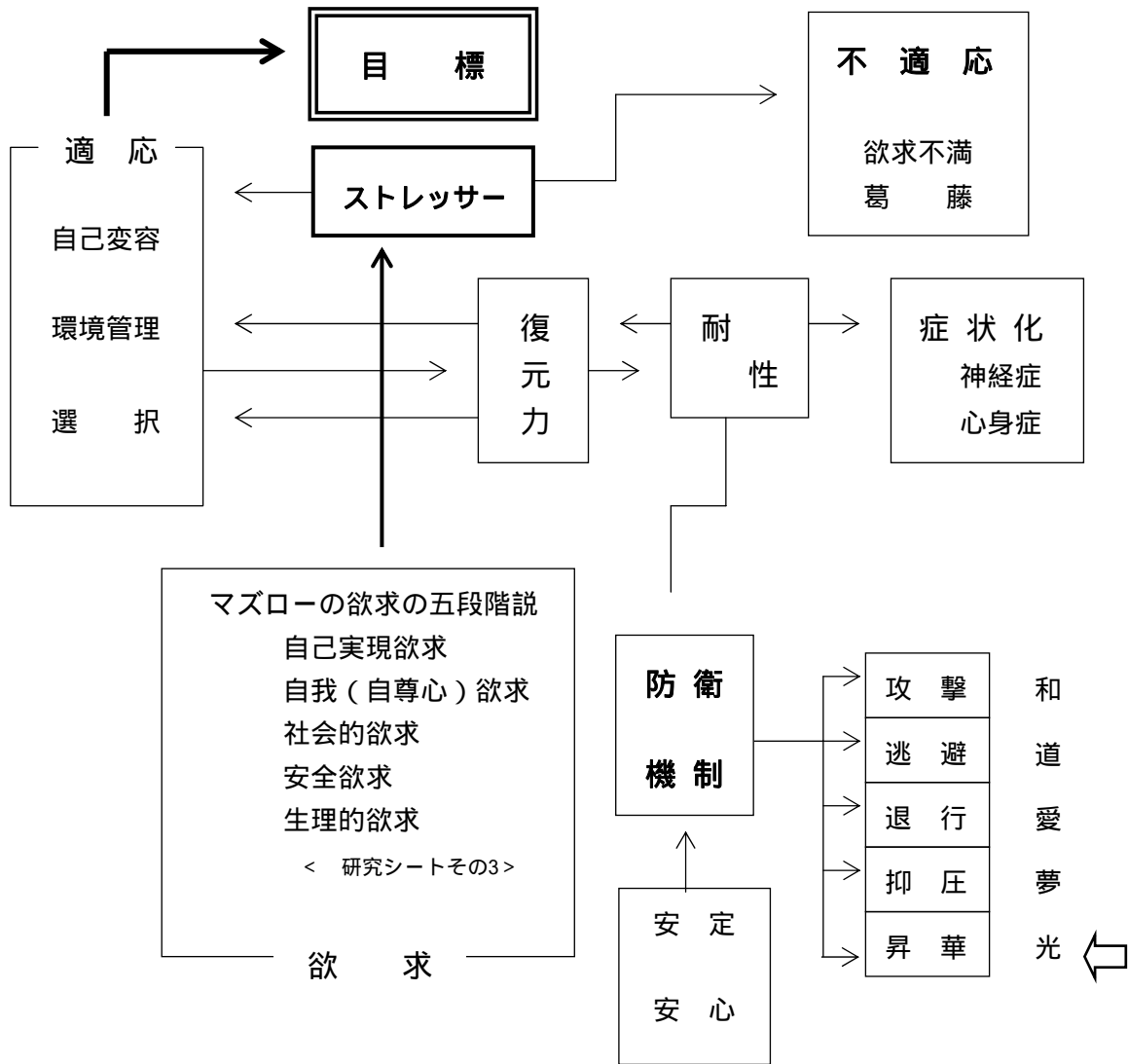
第二の革命が同じく十九世紀後半で、マルクス・エンゲルス達による社会科学の確立である。自然科学の法則性、普遍性追求の方法を社会現象に応用したエンゲルスはダーウィン以上に強く、「猿が人間になるための労働の役割」の中で、人間の祖先を神でなくて“猿”と断定したのである。

第三の革命が、二十世紀初頭から始まったS・フロイトによる「精神分析学」という精神科学の確立である。フロイトこそ、コロンブスのアメリカ大陸発見以上に巨大な意識下の暗黒大陸すなわち「無意識の世界」の発見者なのである。それは、深層心理とも潜在意識の世界とも呼ばれるものであり、人間性回復の試みとして利用していくものである。

日本能力開発研究所所長 安藤一男氏

コミュニケーション観の違い	
欧米型	日本型
話さなければ分かってもらえない	話さなくても分かってくれる
話すことで分かりあえる	話しても分かりあえない
話し合いはトクである	話し合いはソンである
「伝える」ための努力をする	「伝わる」ための努力をする
「説得」によるコミュニケーション	「了解」によるコミュニケーション
相手の「事柄」がわかる	相手の「人柄」がわかる
「タテマエ」を重視する	「ホンネ」を重視する
「オモテ」を読む	「ウラ」を読む
初めに「ことば」あり =声の人=	初めに「態度」あり =目の人=
「パネル」型	「座談会」型
「握手」の文化 =ふれあい=	「おじぎ」の文化 =へだたり=

ストレスからの脱出構図



選択などを行ってその障壁を乗り越えれば、そこで本来の「目標」に到達できる。しかし自己変容・環境管理・選択などができずに“不適応”をきたせば、心の中に欲求不満や葛藤が生じる。しかし、それでも当人の耐性が大きければ復元力につながるが、ストレスに比べて耐性が弱い場合には、神経症・心身症等の症状化を示すようになる。出勤拒否等も、これに当たるが、こうした構造を図式化したのが上の図である。

この肝心の耐性を大きくし、復元力を獲得するには、どうすれば良いのかが課題であるが、耐性・復元力は、当人がストレスに直面して自己変容・環境管理・選択等の適応を経て、目標に到達するという体験を経てのみ増す。確かにストレスを感じ、時に症状化もするが、しかし人間の「復元力」はストレスを通り抜けるという過程を通らないと、決して強くはならないのである。

## ジョハリの窓

人柄一般を説明するときによく使われるもので、一種の概念整理のための考え方である。「ジョハリの窓」は、これを開発したジョセフ・ルフトとハリー・インガムの2人の名前をとって名付けられたものとされている。

この考えによれば、人には、自分が抱く自己のイメージと他人によって観察されたイメージの双方から観み合わせられた4つの領域があるとされている。

1. 自分にも他人にもわかっている領域 (パブリック)
2. 自分にはわかっているが、他人には知られていない領域 (プライベート)
3. 自分にはわからないが、他人には知られている領域 (ブラインド)
4. 自分にも他人にも知られていない領域 (アンノウ)

「ジョハリの窓」は、人が自分のことをいかに知らないかを教えてくれる。他人から見た自分のイメージは、自分が考えた自我像とは大きく隔たっている場合が少なくない。人間関係は相対的なものである。外部の人を対象にした接遇の場合には、他人に知られている部分はほとんどなく、しかも自らわからぬ自分もあると考えなければならない。したがって、接遇はパブリックの領域がほとんどない人間関係のもとで行われるものと理解して行う必要がある。

### ジョハリの「四つの窓」

[ジョセフ・ルフト]  
[ハリー・インガム]

	自分にわかっている	自分にわかっていない
他人に知られている	パブリック (開かれた窓)	ブラインド (気がつかない窓)
他人に知られていない	プライベート (隠された窓)	アンノウ (閉ざされた窓)

「敵意は敵意を刺激し、閉鎖は閉鎖を、信頼は信頼を、開放性は開放性を刺激する」

# 我が「二面性の生き方」

(平成14年5月末日現在)

<人生のベース>

学校事務職員  
大内正  
“日本一”の学校事務職員

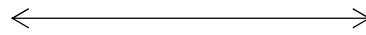
(社会的貢献)

<アウト・ドア志向>

もう一人の人物(タッチン大内)  
“大内 蛭正”  
“遊び心”の学校事務職員

(還元する人生)

個性的な  
二面性の生き方



書く力  
= 想喜法 =

社会に適応する人物

- ・教育界、学校事務職員界
- ・事務だよりの研究実践  
「瀉瓶」(笑いの研究)  
「人生事務だよりの」他
- ・論文活動  
「熱き心」「はがき道」  
「会津までの道」  
「誠心」「恕」の発行  
「学校事務」誌 他
- ・事務研活動  
「講話」「通信研修」  
「研究発表」等

自己実現への道

- ・“スキル”の資質向上  
「出会いが人生を創る」  
「幾何学に王道なし」他
- ・「生き方一人研究会」切なる会員募集  
カウンセラー? アドバイサー?
- ・文芸執筆活動  
「マイ・タウンふるかわ」  
「加藤利吉・会津未来賞」  
(愛・ロマン)(夢・ドリーム)(光・スピリッツ)
- ・「自己表現」の世界で活躍して  
いる方との交流
- ・「夢」(エッセー集等の発刊)

能力開発  
文芸一道

尊敬する人物は?

- ・長命な我が両親(共に80代存命)  
(兄弟10人;これはすごい!)
- ・徳川家康公(ノーベル平和賞?)
- ・D・カーネギー氏(鉄鋼王)
- ・パソコン発明者

「特別研究奨励賞」  
受賞(平7)  
「弘済会研究論文」  
14年連続入選

「生活心理学」「国語常識講座」等の受講  
「仙台育英学園PTA表彰」

コミケの3原則

読むこと  
書くこと  
話すこと

(自己表現の研修)

「アイデンティティ」の探索

自分自身がどのような人間であるかという明確な主体性や存在意識のこと。

正体、身元。本人であること。主体性。

## 理想的な学校事務職員

### 2 積極的思考 ができる。

-----  
成功への強い意欲・情熱  
失敗を成功に転化できる  
自信。

### 1 自分の生き方 を持っている。

-----  
人生観・仕事観・  
倫理観・人間観・  
社会観の明確化。

### 3 相手の立場に なって考えられる。

-----  
自分への高い純粹性  
相手への無条件の肯定的  
配慮・感情移入的理解。



### 4 高い専門的能力 を持っている。

-----  
組織を離れても通用する  
専門分野での高い理論・  
実践的展開力。

### 5 上手な話し 方ができる。

-----  
コミュニケーション・  
プレゼンテーション・  
スピーチ能力への  
自信、傾聴力、話力。



### 3 まとめ（より良い伝統を遺して行くのが、今を生きる者の使命である）

福島県事務研の皆さんは、今、何を考え、何を想って仕事をしていますか？人それぞれの考えがあり、人それぞれの想いがあると思いますが、人は話し合わなければ解り合えないものです。私たちは他人とともに生きています。人の一生は、その出会い方、受け止め方によって決まります。私は相互理解を通して自他を成長させ、平和な社会づくりの一翼を志向しています。「自分が幸福になりたいなら、まず自分の周りの人を幸福にしておくこと」という教えがあります。他人の幸せは、いつかは自分の幸せにつながるものと確信しています。人生を、さらに「ステップ・アップ」させるには、まず、話し方（心の表現）から変えて行くことをお勧めいたします。心は、言葉をもって表現されます。人間関係において最も大切なことです。豊かな人生観は、内面世界の充実から培われていくものです。

今後、「理想的な学校事務職員」を指向するには、「（１）自分の生き方を持っている。（２）積極的な思考ができる。（３）相手の立場になって考えられる。（４）高い専門的能力を持っている。（５）上手な話し方ができる。」とあります。（４）は、この仕事を続けていけば、自然と身に付けられる能力だと思われませんが、（５）は、意識化していかないと身に付かないものです。「話し方」は、適切なコミュニケーションに関係するから簡単に考えてはいけません。

さて、我々学校事務職員には今後どのような能力や人格が必要とされるか、一応まとめてみました。

- (1) 能力面
  - 集中力（仕事などに一体感を持つ力）
  - 直観力（先行きに対しての「読み」をかきせる力）
  - 専門知識力（仕事などに関する幅広い知識や専門的な知識）
  - 理解力（物事の状況を的確につかむ力）
  - 判断力（重要な事柄とそうでない事柄を見分ける力）
  - 計画力（将来の諸状況の関連・因果関係をよく考え抜いて計画する力）
  - 創造力（既知の情報・知識を組み合わせ、新たな考えを生み出す力）
  - 問題解決力（トラブルなどの処理能力）
  - 情報収集力（真の情報をたくさん集める力）「量は質に変換する」
  - プレゼンテーション力（自分の考えをわかりやすく他の人に伝える力）
- (2) 人格面
  - 管理能力（一人一人の個性を把握し、それを効果的に用いる力）
  - 統率力（人々を一つの方向に導く力）
  - 説得力（人々に自らの考えや思いを伝え、理解してもらい、行動してもらおう力）
  - 順応力（十人十色の個性をもった周りの人々と、うまく合わせてやっていく力）
  - 自己開示力（自らの心の内を嘘偽りなく打ち明ける力）

- (3) 人間は、日々の思考や心境という心の習慣や行為が積み重なって性格となり、性格はやがて人格を形成する。人格は人相や容貌となって現れ、特有の雰囲気を出して家庭、職場という環境を造る。人格は品性として形成され、やがて運命という境遇さえも左右する。

人格や品性を高めるためには真理を学び、真理に基づいた思考をして積徳の実践を行う。

様々な能力は、人格や品性が高くなるに従って獲得できる副産物であり、高德な人ほど品性は高く、必要に応じて良い知恵が湧き、自他共に生かすことで幸福となる。人というのは、努力して習得した知識や技能でも人格（品性）が低いと思考は限定され、利己的で不純なことに使いたくなる。人格（品性）を高めなくて、能力を開発すると魔に入り込まれる危険性があり、能力開発には真理に基づく思想と人生観が大切となる。